

日本学校教育相談学会

THE JAPANESE ASSOCIATION OF SCHOOL COUNSELING AND GUIDANCE

栃木県支部会報 2014.03.31

NO.20

○第24・25回支部研究発表会レポート

コメンテーター 毎澤 典子先生

原田 浩司先生

○第8回学校カウンセラー実践研究会に参加して

○精神医学特別講座・合同研修会

「女性のためのやさしい精神医学」を聞いて

講師 加藤 和子先生（さくら・ら心療内科院長）

○カウンセリング特別講座「子どもは未来からの留学生」をきいて

講師 中山昌樹先生（白鷗大学講師・あかみ幼稚園園長）

○発達障がい特別講座

「いじめ防止に役立つ子どもへの対応」

講師 山岡 祥子先生（臨床心理士）

○事務局からお知らせ

◎第24回支部研究発表会レポート

コメンテーター 毎澤 典子先生

2013年10月19日（土）、とちぎ青少年センター研修室において、「第24回支部研究発表会」が開催されました。今回の発表者は2名の先生方で、コメンテーターとして毎澤典子先生をお迎えしました。

- * 日光市立落合西小学校 石塚 晴美
- * 栃木県連合教育会相談員 村上 恵子

（平峰孝二 記）

◎第25回支部研究発表会レポート

コメンテーター 原田 浩司先生

2013年11月9日（土）連合教育会小会議室において「第25回支部研究発表会」が行われました。今回は3名の先生方の発表で、発表内容もそれぞれ密度が濃く、内容も研究発表や事例研究と様々でしたので、事前にコメンテーターの原田先生と時間配分の打ち合わせをしました。そこで、全国大会での口頭発表時間にならない、発表20分、協議15分、コメンテーターの先生より15分の時間配分で実施しました。

- * 日光市立日光東中学校 吉川 修司
- * 県立栃木工業高校 岡本 幸二
- * 県連合教育会相談部 山崎 匡

（谷津嘉子 記）

○ カウンセリング特別講座をきいて

「子どもは未来からの留学生」

講師 中山 昌樹先生 (白鷗大学講師・あかみ幼稚園園長)

去る 2013 年 12 月 7 日(土)、教育会館 5 階の小ホールで「子どもは、未来からの留学生」と題した講演会が催された。講師は、認定こども園あかみ幼稚園の園長中山昌樹氏。氏は、白鷗大学で講師として大学教育に携わっている他、全国認定こども園協会理事として協会の運営にも携わっておられる。

中山氏は、海外の潮流としてフィンランドの保育・教育事情を熱心に語られていた。また、その合間に話されたことが特に印象深かった。『ムッレ』という言葉をご存じだろうか。スウェーデンでは「ムッレ教育」と呼ばれる教育活動があるという。ちなみにムッレとは妖精のことだそう。日本でそれに当たるのは“カップ”であろうか。最後に、教育といえはすぐに勉強と連想されそうだが、氏曰く「遊びが必要である」と説いている。氏は言う。遊びに必要な 3 つの間がある。一つは「時間」であり、もう一つは「空間」である。最後に「仲間」だそうである。

(八島禎宏記)

○ 第 8 回学校カウンセラー実践研修会に参加して

スーパーバイザー 相馬 誠一先生 (東京家政大学教授)

平成 25 年 11 月 30 日、12 月 1 日の二日間にわたって、新宿区 TKP 市ヶ谷カンファレンスセンターにて第 8 回「学校カウンセラー」実践研究会が行われました。7 月の案内で、9 月末が申し込み締切でした。その後、認定委員会から当日スーパーバイザーを受ける「ケースの概要」についての案内が来ました。そこには当日スーパーバイザーを受けるケースについて、A4 サイズ 1 枚 (縦 45 字 50 行以内) という制約付きでケースをまとめなければなりません。もちろん、職場で毎週行われるケースカンファレンスで経験はありますが、1 つのケースについて 1 枚という範囲内に簡潔に、かつわかりやすくまとめることは至難のわざでした。結局、前日遅くまで内容を検討し、資料を準備しました。

研究会 1 日目の前半はスーパーバイザーに東京家政大学の相馬誠一先生をお招きし、スーパーバイザーは中田富美代さんの「構造化されたカウンセリングではない関わり」としての実践について「公開スーパービジョン」が行われました。まず、先生から「スーパービジョンについて」講義がありました。スーパービジョンとは「教育分析」や「事例研究」とは違い、「個人スーパービジョン」「セルフスーパービジョン」「ピアスーパービジョン」「グループスーパービジョン」といった様々な種類があり、施設や機関などにおいて、スーパーバイザーによって行われる専門職としての相談員を養成する過程だということです。

また、「ピアスーパービジョン」とはスーパーバイザー同士が互いに仲間 (ピア) として同じ立場で確認作業を行う形態だということです。メリットとしてはより親しみやすい雰囲気グループ討議を進めることができますが、デメリットとしてはメンバーがスーパービジョンを理解していなければ、単なるグループ学習になってしまう危険性もあるということです。また、スーパーバイザーが不在で行われるため、その場での確かな確認作業が行えないこともあります。

次に、「グループスーパービジョン」は一人のスーパーバイザーが複数のスーパーバイザーに対してスーパービジョンを実施する形態です。グループの中で一人のスーパーバイザーの業務課題を確認するが、その確認作業を通して、スーパーバイザー全員の専門性の向上に繋がります。メリッ

トとしてはバイザーの助言から仲間内では気づけないことに気づくことができますし、ほかのメンバーの意見を聞き、相互に交換することで新しい気づきや共感が生まれます。デメリットとしては個人スーパービジョンに比べて、個人的な気持ちや問題は隠され、自己覚知を深める討議は表面的なものになってしまう傾向があるということです。

このようにスーパービジョンについて学び、スーパーバイザーから提出された事例に対し、グループスーパービジョンを交え、深く考えることができ、さらに相馬先生のスーパービジョンにより、具体的にケースの見方を学ぶことができました。

一日目後半から、翌日の3時半まで、3グループに分かれてそれぞれコメンテーターがつき、スーパーバイザーとスーパーバイジーを経験するワークショップが行われました。それについては、栃木支部からの参加者がそれぞれ報告します。

(谷津嘉子記)

第1分科会

栃木県連合教育会相談部相談員 村上 恵子

私たちのメンバーは、東京近県から集った小学校管理職、中学校養教、高校再任用養教、私立高非常勤教員、教育相談員の7名です。講師相馬誠一先生の的確な指摘もあって、温かく熱い事例検討会になりました。特に、スーパーバイザーの視点や助言について、スキルアップを凶れたと感じています。さらに、メンバーから「明日から使えるヒント」もいただき有意義な研修でした。ぜひ皆さんも参加しませんか！

第2分科会

栃木県連合教育会相談部相談員 谷津 嘉子

第2グループのコメンテーターは帝京科学大学子ども学科教授の有村久春先生でした。神戸支部の藤井弘先生と千葉支部の石橋美保先生の進行で、参加者9名全員が、スーパーバイザーとスーパーバイジーを体験し、有村先生からコメントを頂くことが出来ました。

有村先生は自らロジャリアンと称していらっしゃるだけのことがあり、ゆったりと私たちを包み込み、自ら問題解決できるような温かなコメントを頂きました。研究会の終了時には充実感であふれ、1日半みっちり互いのケースについて深く学んだ仲間だからこそ感じる事ができる深い連帯意識が芽生えていたように思われた分科会でした。

第3分科会

県立大田原東高等学校教諭 原沢未来生

第3グループでは、新潟明訓高校の岩野宣哉先生をコメンテーターとし、蔭山昌弘先生と青木美穂子先生の司会進行で、8名の参加者がスーパーバイザーとスーパーバイジーを体験しました。スーパーバイジーが「話すことで新しい気づきに至るように促し」、スーパーバイジーを「勇気づけること」が、スーパーバイザーの役割であることを学びました。そのためには、豊富で確かな知識が必要なことも痛感し、一層学ぼうと思った一日でした。

○ 発達障がい特別講座

いじめ防止に役立つ子どもへの対応

—怒りのメカニズムとコントロール法—

講師 山岡 祥子先生 (栃木県連合教育会相談部・臨床心理士)

「脳科学からみれば怒りがどれだけ大切なことか、脳内を満たすことで暴走しないように導く」、講演の終わりに山岡先生が怒りについて結んだ言葉であり、脳科学の奥の深さに非常に興味をひかれるセミナーの内容であった。平成26年1月25日(日)、教育会館中会議室を会場に発達障がい特別講座が催され、多くの関係者が



学びに集まった。

2005年以降、すぐにカットなって衝動的・攻撃的・暴力的な行動をとる「キレル」子どもが増加し低年齢化してきている。増加した背景には、少子化が進んできたことやインターネット・ゲームなどの影響により前頭前野が育ちにくい子どもや、あるいは大人の価値観が変わってきたことなどがあげられる。その結果、発達に特性のある子は情緒や行動に感情のコントロールがうまく結びつかず怒りが生じてくる。

「怒りは人間の本能である。怒りの原因はストレスであり、怒りとストレスは密接に関係している」と述べ、山岡先生はここから時間を充分かけながら、怒りのメカニズムを脳科学の立場から説き始めた。前頭前野の必要性に触れる。前頭前野は人間が社会の一員として生きていくために必要不可欠な働きをし、使わないと働かず、使い続けることが大切であると語る。前頭前野が阻害されると他者の感情が読めないことや、その場の空気が分からない、あるいは子どもがキレやすくなるなど多くの問題が生じてくると言う。前頭前野が発達することで、「がまんする力」や「相手の気持ちを読む力」などが育まれる。前頭前野には、共感脳・仕事脳・学習脳の3つの脳が存在し、そこにはドーパミンやノルアドレナリン、セロトニンが関係するなど詳細な話が続く。更にはオキシトシン・オピオイドの話が加わり興味引かれる内容に、難しいながらも誰もが一心に話にのめり込んでいく。

山岡先生は自分でできる怒りの消火法として、怒りを爆発させる内容の『パティは親切が大嫌い』と感情を抑圧する『へっちゃら君』の2冊の絵本を朗読し紹介くれたことも印象的であった。

(馬場友治記)

○ 精神医学特別講座「女性のためのやさしい精神医学」をきいて

講師 加藤 和子先生 (さくら・ら心療内科医院長)

「さくら・ら」の「ら」はラテン語であって、英語でいう「THE」であると言うたねあかしから始まった加藤先生の講演は終始一貫、「ざっくばらん」でした。超多忙な先生、お子さんのピアノレッスンにいかにしてつきあうかのエピソードには医師とはいえ「おかあさんの顔」が垣間見え、ほっとしたのはなぜでしょう。

講演の内容は「1、最近の話題」から始まり、世界では年間100万人が自殺で死亡しており、日本では一日80人の割合で自殺者が出ていると。対人口10万人中24人は世界でも非常に高い方に位置している事実は大きな社会問題としてとらえなければならないと訴えかけました。

「2、自傷と薬物療法」では自殺は気を惹くために切るわけではなく「不快感情」への対処であって、脳内麻薬の分泌で不快への鎮痛効果があるのだという指摘がありました。自傷はエスカレートし、「生きるため」のはずだったのに「死」が近くなってくるという皮肉な面があるので、「自傷」を告白されたら、「傷つけちゃダメ」は「ダメ」であって「よく来たね」「よく話してくれたね」と支持をし、存在を承認し、エスカレートに対する懸念を謙虚に伝えることが大切というアドバイスがありました。

「3、精神疾患」ではいくつかの疾患の説明解説があり、学校現場で対応に苦慮している「アスペルガー症候群」に対しては「受け入れられる環境作り」ができるかどうかが出発点だとの指摘がありました。

「4、うつ病について」は「こころの風邪」ではなく、脳の機能性障害であって、脳内の伝達物質のバランスが崩れている状態であると理解していないと対応がうまくない助言がありました。薬物治療で67%は治るが



33%は治らない疾患であり、心理療法が効果的なこともあるので「認知行動療法」「SST対人スキルコミュニケーション」は中でも有効とのこと。

「さくら・ら」ではうつ病患者に対して国からの補助を受けて「5、リワークプログラム・復職、就労支援プログラム」に力を入れて、多くの具体的成果を出しているとの紹介がありました。

「6、うつのリハビリテーション」を始めることで「自分らしく生きる」を主体的に生きることを追求し、医療から就労へと切り替えることを目指しているのが印象的でした。「7、自分のストレスと付き合う」では次のポイントが挙げられました。

*ストレスに気づく…こころ疲れは身体に現れやすい

*ストレスに対処する…睡眠時間、生活リズム、バランスよい食事、適度な運動、仕事人間にならない(ワーク・ライフバランス)

*周りに相談する…早めに相談する。抱え込まない。普段からのコミュニケーション。

以上が講演の概略です。「精神医療はなかなか結果が見えないものであり、寄り添って、自分らしく生きる手伝いをするにつきる」と最後に述べられたのが印象的でした。

(柴 一弥記)

○ 事務局からお知らせ

支部研究発表会の発表者を募集します。資格認定や更新に必要なポイントとなりますので、発表を希望する方は事務局までお問い合わせください。

- ・第26回支部研究発表 10月18日(土) 13:30~16:00
- ・第27回支部研究発表 11月15日(土) 13:30~16:00

* 研究紀要原稿を募集します

過日、理事会において平成26年度総会並びに事業計画(案)が協議されました。平成26年度は研究紀要発行の年になっています。学校カウンセラー等の資格申請を目指している方、または、資格更新の年度になっている方は日頃の研究をまとめ、発表する機会としていただければと思います。

* 第25回栃木県支部総会並びにカウンセリング特別講座のお知らせ

日時：平成26年5月31日(土) 13時~(総会) 13時30分~(講演会)
会場：栃木県教育会館 5F
講師：バーンズ亀山静生先生 (ニューヨーク州認定スクールサイコロジスト)
演題：「発達障がい理解と対応」(仮)

* 平成26年度 栃木県支部 発達障がい特別講座のお知らせ

日時：平成26年6月1日(日) 9時30分~15時30分(5時間)
会場：栃木県青少年センター2F 第1研修室(5月31日と違いますのでご注意ください)
講師：バーンズ亀山静生先生 (ニューヨーク州認定スクールサイコロジスト)
演題：「発達障がい理解と対応・演習を交えて」(詳細は後日お知らせします)
受講料：*相談学会員 3000円 *一般 4000円
*通信欄に講座名と、会員・一般を明記して下さい。
申込：定員50名 受講料を下記口座にお振り込みください。
(振込票兼受領証を参加証としますので、当日ご持参下さい。)
*5月15日以降は空きがあるかご確認ください。定員になり次第締め切ります。
【郵便振替口座】00340-4-14475
【加入者名】 日本学校教育相談学会 栃木理事会

問い合わせ： 栃木県連合教育会相談部内 TEL 028-621-7274 FAX 028-627-5682
E-Mail : soudan@tochigi-rk.jp

〒320-0066 宇都宮市駒生 1-1-6 教育会館内
栃木県連合教育会相談部
日本学校教育相談学会栃木県支部事務局
(担当 谷津 嘉子・中山 芳美)
TEL 028-621-7274 FAX 028-627-5682
E-Mail : soudan@tochigi-rk.jp
(発行責任者 丸山 隆/広報担当者 藤浪 直紀)